

四門会

第15号



聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会

目次

巻頭言

2007年を振り返って	教授 肥塚 泉	2
-------------	---------	---

ご挨拶

平成19年度医局長挨拶	医局長 黒田 寿史	3
本院、西部、多摩病院外来担当表		4
各病院スナップ		6

大学院生便り

大学院になりました	三上 公志	8
大学院便り	深澤 雅彦	8

OB通信

近況報告	佐藤 成樹	9
大変お世話になりました	新谷 敏晴	9
お世話になりました	服部 康介	10

私の近況報告	平野 佳美	11
--------	-------	----

追悼 古野隆之先生

古野君を悼む	名誉教授 竹山 勇	13
古野先生、ご苦労様	客員教授 加藤 功	14
追悼 古野隆之先生	飯田 順	15
追悼 蒼き狼	岩澤 寛	15
追悼 古野隆之先生	渡来 潤次	16
追悼 古野隆之先生	大高詳一郎	16
追悼 古野隆之先生	中島 博昭	17
古野隆之先生を悼む	南 定	18
古野さん、ありがとう	大竹 英夫	19

日本耳鼻咽喉科学会に参加して

第108回日本耳鼻咽喉科学会報告	矢野 裕之	20
------------------	-------	----

第37回平衡機能検査技術講習会報告	矢野 裕之	21
-------------------	-------	----

コラム

眼底検査のすすめ	岡田 智幸	22
----------	-------	----

同門会会則		23
-------	--	----

第10回理事会議事録		25
------------	--	----

編集後記	岡田 智幸	26
------	-------	----

2007年を振り返って



肥塚 泉

早いものでこの巻頭言の原稿の提出を催促される季節となりました。8月・9月の酷暑の記憶がやっと薄れかけてきたところですが、世の中では相変わらずさまざまな出来事が起こっています。平成19年の出来事を振り返ってみます。今年の特徴は、例の9・11事件を端緒に世界各地で続いているテロ関係の事件が目白押しであるということです。具体的には、1月1日、タイのバンコクで連続爆弾テロが8件。1月10日、ジョージ・W・ブッシュアメリカ大統領、イラクへアメリカ軍2万2千人を増派することを発表、国民から批判の声。1月12日、ギリシャ・アテネのアメリカ大使館にロケット弾が打ち込まれ爆発。2月3日、バグダッドでイラク戦争後最大規模の自爆テロ発生、130人以上が死亡、300人以上が負傷、などでしょうか。また2月4日、インドネシア・ジャカルタで2月1日からの豪雨による洪水が発生、少なくとも20人死亡、20万人以上が避難。3月6日、インドネシア・スマトラ島中部でマグニチュード6.3の地震、多くの建造物が倒壊し死者多数、4月2日、ソロモン諸島付近で、マグニチュード8.0の大地震発生、周辺海域で津波による被害が発生し、20名以上死亡、8月1日、アメリカミネソタ州のミネアポリスでミシシッピ川に架かる高速道路の橋が崩落、多数の死傷者が出る。9月12日、スマトラ島の南部沖で大地震、マグニチュードは、初期値M7.9、改定値M8.2、再改定値

M8.4、死者9名（原稿執筆時点）など、いわゆる天変地異が多かったのも今年の特徴と思われます。アメリカでは相変わらず、銃社会の歪みを感じざるを得ない事件が多発しました。2月12日、アメリカ合衆国・ユタ州ソルトレークシティのショッピングモールで男がライフルを乱射、5人が死亡、犯人の男は警察隊により射殺。4月16日、バージニア州のバージニア工科大学構内で、32人死亡、15人負傷と同国史上最悪となる銃乱射事件発生。容疑者の韓国人学生は自殺。以上のように平成19年という年はいのしし年ということもあり、猪突猛進、我々医療界を含めていろんな事が一気に改善する良い年になることが期待されましたが、現実はそのようにはいかなかったようです。

私どもの医局を振り返ってみましても相変わらず初期臨床研修システムの煽りを受けたままで、現時点では来年度も入局者“0”という危機的状況が続いております。これに拍車をかけるよう、大学病院勤務者は教育、研究、緊急への対応に駆り出され、精神的・体力的限界に近い勤務形態を余儀なくされています。四門会会員の先生方におかれましては、現在我々耳鼻咽喉科学教室が置かれている窮状をぜひともご理解の上、これからこれまでと変わらぬご支援のほどよろしく願います。

平成19年10月17日記す

平成19年度医局長挨拶

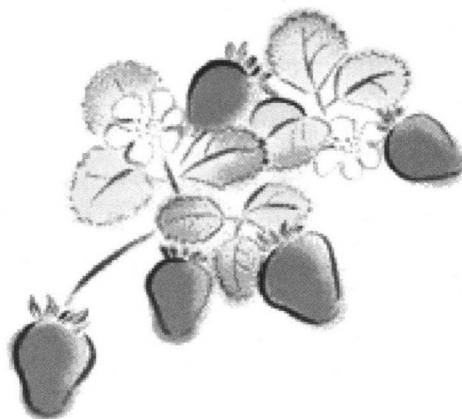
医局長 黒田 寿史

平成19年4月より医局長を勤めさせていただいております平成10年度入局（22期生）の黒田寿史です。前任の医局長である服部康介先生から業務を引き継ぎ、医局員にも支えられながらようやく半年が過ぎました。これまで行ってきた臨床業務とは異なり、慣れない事務仕事が山積し、四苦八苦の毎日を送っております。

大変残念なことに平成19年度は新入医局員を迎えられず、臨床現場における最も若い医師は卒後4年目（平成16年度入局）となってしまいました。近年の卒後臨床研修必修化の影響が大きいと思われまます。目下、新入医局員の確保を当科最大の重点課題と考えて皆で対策を練っているところです。

関連病院におきましては平成18年度末をもちまして東芝林間病院、共立蒲原総合病院への常勤医派遣を終了いたしました。また、平成19年度より新たに高津中央病院、麻生病院へ常勤医の派遣を開始いたしました。

今後も肥塚教授のもと医局員一丸となって大学および大学関連病院の充実、ならびに病診連携のさらなる強化、さらには労働環境や教育面で魅力ある医局づくりの一助を担うべく努力したいと思っております。



耳鼻咽喉科外来担当表

平成 19 年 11 月現在

＝専門外来等、()内の数字は何週目かを示す

午 前	初診	月	火	水	木	金	土
	再来	春日井 向出	山口 北島	黒田 北島	宮本 黒田	大塚 山口	向出 春日井
特殊	中耳 顔面神経	頭頸部 腫瘍	喉頭 音声	喉頭 音声	めまい	味覚	
	(肥塚) 俵道 菱澤 内田(1)	渡辺 大塚 赤澤	赤澤 春日井 信清	岩武(1,3)	肥塚 北島 向出	大草	
病棟 当番	北島	春日井	向出	山口	赤澤	山口	
救急 当番	春日井	北島	北島	黒田	大塚	向出	

午 後			鼻・副鼻腔 アレルギー	聴覚		
	めまい 検査	春日井	北島	宮本 俵道 黒田 山口 宮部(2,4)	木下 越智(1,3) 鈿持(2,4,5) 齋藤	
救急 当番	北島	春日井	春日井	向出	向出	

西部病院

TEL : 045-366-1111 FAX : 045-366-1190

＝専門外来等、()内の数字は何週目かを示す

耳鼻咽喉科						
午 前	月	火	水	木	金	土
	岡田 智幸 小宅 大輔 杉山 裕	岡田 智幸 杉山 裕 深澤 雅彦	小宅 大輔 深澤 雅彦 芋川英紀(3,4)	岡田 智幸 杉山 裕 深澤 雅彦	小宅 大輔 杉山 裕	岡田 智幸 小宅 大輔(2) 杉山 裕(4)
午後	中央手術	中央手術	中央手術	佐藤成樹(2,4) 鈿持 睦(1,3)	検査	深澤 雅彦(2,4)

多摩病院

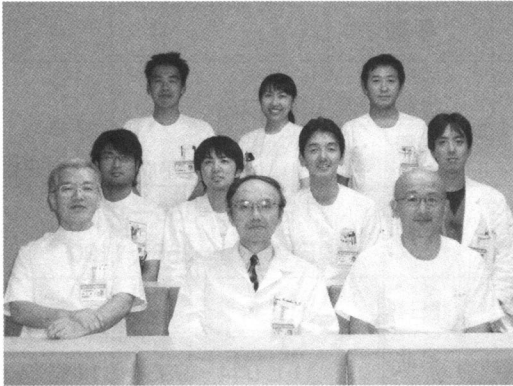
TEL : 044-933-8111 FAX : 044-930-5181

耳鼻咽喉科						
	月	火	水	木	金	土
午 前	鈴木 一輝 三上 公志	堤 康一朗 鈴木 一輝	鈴木 一輝 三上 公志	手術	堤 康一朗 三上 公志	交代で1診 (初診)
午 後				手術		

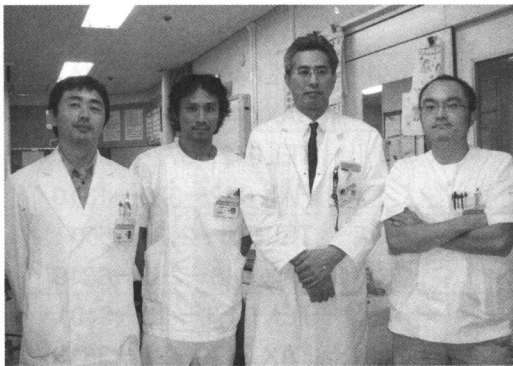
関連病院

平成19年4月現在

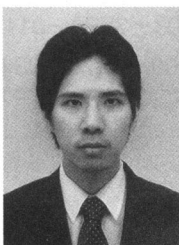
西部病院	岡田 智幸 小宅 大輔 杉山 裕 深澤 雅彦	TEL 045-366-1111 FAX 045-366-1190
多摩病院	堤 康一朗 鈴木 一輝 三上 公志	TEL 044-933-8111 FAX 044-930-5181
麻生病院	矢野 裕之	TEL 044-987-2522 FAX 044-988-0878
聖ヨゼフ病院	中村 学	TEL 046-822-2134 FAX 046-822-3134
稲城市立病院	菱澤 えり子 高橋 佳孝	TEL 042-377-0931 FAX 042-379-1310
済生会川口総合病院	齋藤 晋	TEL 048-253-1550 FAX 048-253-8319
島田総合病院	内田 登	TEL 0479-22-5401 FAX 0479-23-3613
水戸済生会総合病院	岡本 充史 及川 貴生	TEL 029-254-5151 FAX 029-254-9099
横浜総合病院	桑原 大輔 田中 泰彦	TEL 045-902-0001 FAX 045-903-3098
秦野赤十字病院	高津 光晴	TEL 0463-81-3721 FAX 0463-82-4416
高津中央病院	信清 重典 島田 園子	TEL 044-822-6121 FAX 044-822-7995
財団法人癌研究会	新橋 涉	TEL 03-3520-0111 FAX 03-3570-0343



♪ 聖マリアンナ医科大学病院 ♪



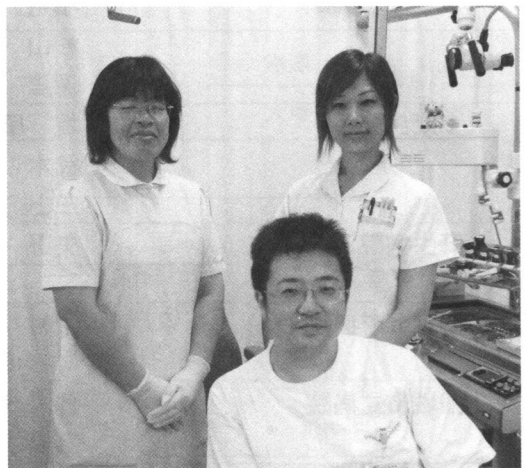
☆ 西部病院 ☆



♪ 多摩病院 ♪



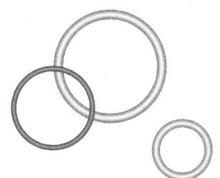
☆ 麻生病院 ☆



♪ 聖ヨゼフ病院 ♪

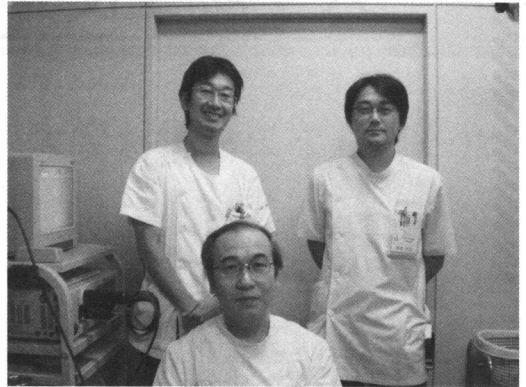


★ 稲城市立病院 ★





★ 済生会川口総合病院 ★



☆ 水戸済生会総合病院 ☆



♪ 横浜総合病院 ♪



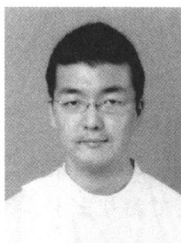
♪ 島田総合病院 ♪



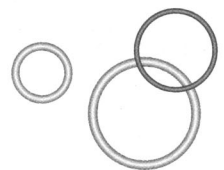
☆ 秦野赤十字病院 ☆



★ 高津中央病院 ★



♪ 財団法人癌研究会 ♪



大学院生便り

大学院生になりました

大学院1年生 三上公志

大学院1年生の三上公志です。大学院の所属は耳鼻咽喉科教室で、現在肥塚先生のもと、研究させて頂いております。

研究内容は、体性感覚刺激による前庭への影響についてです。この研究の原点となったのは、1998年に行われたニューロラブ計画の検証結果からでした。宇宙酔いの仮説の一つであるOtolith tilt-translation reinterpretation説の検証が行われましたが、その結果は予想とは違うものでした。考察の中で、予想と反した原因は体性感覚刺激のためではないかと考えられており、今回の研究にいたっております。

まだ誰も行ったことがない研究のため、手探りの状態で始まっておりますが、そのためか、どんな結果になるのか非常に楽しみです。

実験は多摩病院での仕事が終わったのち、鈴木一輝先生と一緒に大学へ戻って行っております。数多くの先生方に見守られながら実験することができ、自分はなんて幸せなのだろうと感じております。今後、さまざまところでご迷惑をおかけしてしまうと思いますが、ご指導・ご鞭撻の程よろしく願っています。

大学院生便り

大学院2年生 深澤 雅彦

私は、昨年度に引き続き、聖マリアンナ医科大学横浜市西部病院に勤務させていただき、岡田部長、小宅先生、杉山先生にご指導いただきながら臨床の現場で勉強させていただいております。また今年度より、大学院研究日として金曜日に生化学教室に出入りさせて頂いております。

研究のほうはといいますと、4月より『片側内耳破壊後の前庭代償におけるプロテオミクスを用いた小脳片葉発現タンパクの解析』の研究テーマのもと、まず肥塚教授にお話をさせていただき、大阪大学堀井先生、北原先生に2度にわたってラットの片側内耳破壊の手技を勉強してもらいに行かせていただきました。ラットの片側内耳破壊はその大きさゆえ大変難渋いたしました。最近ようやく成功例を見るにいたるようになりました。

今後は、プロテオミクスを用いた網羅的解析を行うことで、この前庭代償モデルの小脳片葉発現タンパクの経時変化を解明し、前庭代償において意義を持つタンパクを同定することを目的として実験を進めていこうと考えております。

OB通信

近況報告

佐藤 成樹

横浜市都筑区に「葛が谷こまクリニック」を開業して、あっという間の一年が経ちました。開業した場所は平成20年3月に横浜地下鉄の新線が開通予定で、その駅前になります。駅名は当初「葛が谷」の予定だったのでクリニック名に「葛が谷」と入れたのですが、「都筑ふれあいの丘駅」に変わったのはちょっと見込み違いでした。「こまクリニック」の由来は、私が宮城県の「栗駒」というところ出身地なのでそこから採りました。略して「こまクリ」という単なるダジャレです。

振り返ってみると、仕事上で何かが変わったという意識はありません。勤務医時代と同じ機器やスタッフ、というわけにはもちろんいきませんし、仕事の内容も違う点がいろいろあるのは当然です。しかし開業したからといって、医師としての診療のやり方はできるだけ変えたくはなく、また変えるほどの器用さもなく、これからも「何も足さない、何も引かない」でいこうと思っています。

身辺で変わったことといえば体重が増えたくらいでしょうか。西部病院に勤務していた最後の一年は体重がどんどん減少して(禁煙すると太るといのは私には当てはまらなかった)、一時は60kgをきったのですが、今は64-65kgに戻りました。皆様、とくに西部病院の先生方、お体を大切にしてください。

大変お世話になりました

新谷 敏晴

医局を辞し、早や半年が経過しました。皆様も良く存じていらっしゃると思います、登戸駅前で長年ご活躍された大木先生が引退するにあたり昨年継承のお話をいただき、今年5月に同場所にて開業致しました。今は臨床以外の仕事にも頭を悩ませ、その日その日の患者数に一喜一憂し、目の前の仕事をその場で何とか処理し過ごしている日々です。岡田先生から原稿依頼をいただき「もうそんな時期になったのか……」と、開業半年を振り返る余裕がなかった事に気付かされた次第です。現在は肥塚教授のご厚意にて非常勤講師での在局のお許しを頂き、週1回多摩病院での手術に参加させていただいています。研究も、と思っではいるのですがなかなか軌道に乗るまで頭が回らず、越智先生や釘持先生のバイタリティーには改めて敬服しています。簡単なものでも臨床に則した研究で発表ができたらなあと考えています。

思えば平成6年に入局し辞すまでの12年間、色々な経験をさせていただき、また多くの先生方にお世話になりました。ほとんどが楽しい思い出ばかりですが、当時は辛かったことも今となっては笑い話になることばかりで、改めて思い返しても「思い出したくもない」思い出は全くありません。これも常にやさしくご指導いただいた先輩先生方、下から支えてくれた後輩先生方のお陰とこの場を借りて御礼申し上げます。

何を書かせていただくかとほんやり考えていてまず思い浮かんだエピソードは「最初の扁摘」です。入局当時の病棟は、現在の疾患別で

「お世話になりました。」

服部 康介

はなく、3つのチームが耳、鼻、腫瘍疾患すべてを扱うという編成でした。その時の直属上司は三保先生、「1回目は教えるから次は自分でやっごらん」タイプです。今は額帯電灯ですが、当時は額帯鏡で視野を得ていました。やっと鼓膜が見えるか見えないかのレベルだった私は、まずは光を咽頭に当てることで一苦労し、被膜が分からず出血させ、止血に手こずり扁桃実質に侵入し、右側が終わる頃には1時間半は優に超えていました。気づけば真後ろに竹山教授（当時）が覗かれていて驚き、左側はクロスハンドになりますます「グズグズ」、しまいには麻酔科の先生に面と向かって「扁桃摘ごときに2時間以上かけるんじゃねえ！」と真剣に怒られました。それでも三保先生の愛の手は入らず、結局約2時間半の大手術となりました。今見ても、医師になって初めて書いた手術記録書のサインは心なしか震えています。この経験から私も後輩の指導にはあまり手を出さなかったように思います。これまでいろいろな施設で勉強させて頂く機会を頂きましたが、後輩の面倒見の良さがこの医局の美德だったと改めて実感した次第です。

最後に、これまでお世話になりました諸先生方に深謝しますと共に、今後ともご指導賜りますよう、よろしく願い申し上げます。

平成19年9月6日に父が他界しました。病名は肺小細胞癌です。父から電話で病名を知らされたのは18年の12月、たしか四門会の数日前でした。そのころ翌年度人事の締め切りを数日後に控えていた私は、19年度も大学で医局長を行うこととして大学関連病院の人事案の最終調整をしていたころでした。受け持ちに難治性の鼻出血もあり、肉体的にも精神的にも多忙過労を極めていた時期でした。平成7年の入局以来ずっとお世話になった医局、諸先生方から賜ったご恩をまだ何もお返し出来ていないことに非常に心苦しさを感じましたが、これから辛い闘病生活に入る父とそれを支える母の傍にいてやりたいという気持ちが強く、今年3月末日をもって退職させていただきました。その後父は化学療法と放射線治療を繰り返し、11度の入院を繰り返しましたが、虚しく鬼籍の人となりました。父は母や私の姉、妹家族にはそれぞれ別れの言葉を用意しておりましたが、なぜか私にだけは改まった別れがありませんでした。最後の入院の際に交わした会話の間に、「後は頼んだぞ」といわれたあの一言が、親父の私への別れの言葉のつもりだったのかもしれない。肥塚教授を始め、医局の先生方には本当にご迷惑をおかけして申し訳ありませんでした。然しながら先生方に送り出していただいたおかげで父との貴重な5ヶ月間を過ごすことが出来ました。心からお詫びとお礼を申し上げます。

私の近況報告

平野 佳美

四門会の先生方におかれましては益々ご健勝のこととお喜び申し上げます。

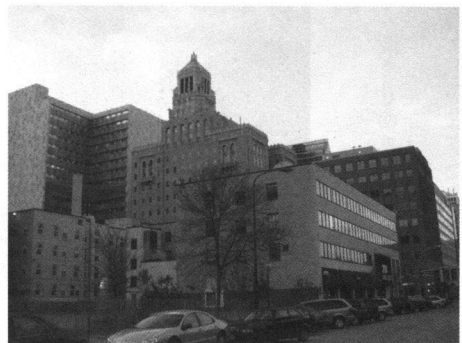
現在、私はアメリカ中西部ミネソタ州にあるロチェスターという街に住んでいます。主人の留学先であるこの街は、治安が非常に良く、ハイテク（巨大なIBM工場）と医療（メイヨークリニック）の2部門が経済の中心を占めています。北海道とほぼ同じ緯度に位置し、涼しい夏と厳しい冬が特徴的です。

メイヨークリニックは外観・内装ともにホテルのような豪華さを持つ病院で、院内には患者さんからの寄付である数々の美術品が飾られています。ロビーにはグランドピアノを定期的に演奏するボランティアがおり治療に訪れる患者さんや家族を癒す空間になっています。このような素晴らしい施設を備えたメイヨークリニックは治療、研究のみならず、教育にも力を注いでおり、毎日のように様々な勉強会が開催されています。

私は、2007年10月11日から14日にメイヨークリニックでおこなわれたRhinoFestに参加し、鼻・副鼻腔に関する解剖、画像診断から様々な手術手技の工夫、免疫学的トピックス、美容形成外科の手術までバラエティーに富んだ内容

を聴講しました。後半は解剖実習をおこなうグループと手術手技や解剖をライブで見学するグループに分かれての学習でした。私は見学だけの予定でしたが、最終日には解剖室で実習に参加させてもらうことができました。英語で説明を聞き、話し合いながらの実習は大変でしたが、様々な国の耳鼻咽喉科の先生方と知り合うことができ、とても良い経験になりました。

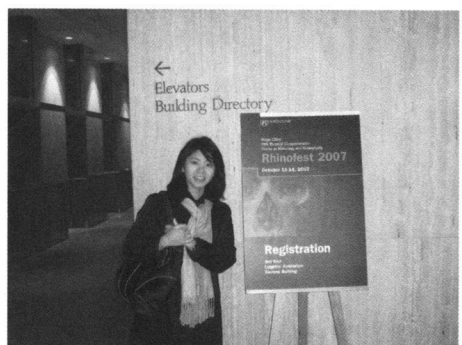
また、肥塚教授をはじめ諸先生方のご協力により、10月からメイヨークリニックで勉強することになりました。喫煙の気道内免疫細胞に対する影響について研究をおこなっている呼吸器内科の先生の研究室で6ヶ月お世話になります。専門分野は異なりますが、新しい環境でたくさんの知識を吸収して、今後の仕事に活用していきたいと思います。



メイヨー 秋



2007.8.10 アメリカ16日目



RhinoFesta 2007 1日目

追 悼

古野 隆之先生



行徳開業時の古野先生

古野君を悼む

竹山 勇(名誉教授)

本年一月、古野君の重篤な病状を南先生から知らされ、南君と一緒に御見舞に行くべく、ホテルや新幹線の旅券の手配などをして貰った矢先に訃報に接し、訪れる機会を失し口惜しい思いをしました。

古野君は豪放磊落な九州男児の風格を持ち、拙宅にも屢々遊びに来て談笑したものです。

スポーツは万能で特に柔道にすぐれ、ゴルフ・スコアも80前後だったと思います。医局のゴルフ・コンペ(竹山杯)の第一回(昭和五十八・五十九年頃)の参加者を競馬にたとえた馬券の枠組に各自のネーミングを考え出したのも彼のユーモアでした。例えば、スイートボーイ、ミヤギノカッペ、キクノデツパラ、リトルカクエイ、カリアゲイサムなどなど。このユニークな命名に一同大笑したものでした。医局における生活は短かったのですが、手術に対する覚悟も早く、大変に手先が器用でした。彼のいろいろな想い出は尽きることがありません。

好漢、安らかに眠り給へ。

合掌

・教え子の先立つことの

哀しさは

深まりゆきぬ

日の経つにつれ

・巨(おお)きくて頼もしかりし

教え子の

訃報を知りて

哀しみのます

・残されし母君あわれ

涙する

便り届きて

我も哀しも

・母君の切々とした手紙(ふみ)

読みて

心うたれて

涙あふるる

・還暦を前に倒れし

無念さを

深く思いて

君を偲びぬ

・吾もまたいづれ参らじ

天国(みくに)にて

君と語らん

若き日のこと



古野先生、ご苦勞様

加藤 功

先生一体どうされたのですか、余りに早いご逝去にただ、ただ驚き一瞬息をひそめた次第です。

貴方とは一緒に仕事をしたことはなかったのですが、昭和61年私が聖マリに赴任し、62年教授就任の立食パーティの折初めてお目にかかりました。町田市民病院に出張中で橋本久子先生と一緒にでしたね。開口一番「加藤茶、田舎から出て来た割にはいいものを着てるね。いいですか加藤茶、怒るばかりが教育じゃないよ、怒っても手術はうまくならないのよ」初対面で加藤茶呼ばわりされてビックリでしたが、貴方の言った言葉に感心し自分の戒めとした次第です。又次に会った時には「加藤茶、めまいの患者は時間がかかる。検査中に他の患者が3~4人診察出来てこっちの方が金になるよ」これには余り感心はしませんでした。話の端はしに出てくる鼻の手術に関し、この人は出来る人で将来財を成すであろうと思いました。

古野先生はゴルフもシングル級というのが全員の見方で、竹山杯で同じパーティで廻ることになった折、さぞうるさく注意等というタイプであろうと自分なりに練習してから廻ったものです。当日、意外や意外、自分がチョロしても黙って大声も出さずに黙々とプレーするのではないかと、私といえばダフリにダフリの連続だった。彼に聞くこと3~4回、やっと最後に言うことには「練習上のマットはダフっても沈まない、打った時上下動があるからだ。加藤茶、軸回転を練習するように」とのありがたいアドバイスに気を入れて練習すれど相変わらず100前後で廻るアベレージゴルファーです。そしてダフリは相変わらずで先生の助言を心の引き出しより出しては気を入れ替えています。

古野先生が飯塚に帰られた後、順調に開業医の道を歩まれておるとばかり思っておりましたが専門医講習会で古野先生に会ったという先生から入る情報では、糖尿病になってやせてしまったとか、その後の講習会でも先生に会ったという方から今度は前立腺がんの全身転移ですっかりやせてはいたが相変わらずの古野節だったと聞いておりました。

それにしても早すぎご逝去、もう一度お目にかかりたかったですね。

安らかに眠りください、万感の思いを込めて・・・



ホールインワン達成記念植樹

追悼 古野隆之先生

飯田 順

二年前にあった神戸の専門医講習会の際に酒席を設けようと思い、久しぶりにあなたに電話をかけた時のことでした。「元気ですか？」と問いかけた私に、一瞬間を置いてから「順ちゃん、オレ癌になっちゃったよ」と全く予期せぬ答えが返ってきたときに、先に続ける言葉がみつかりませんでした。

思えば学生時代より柔道の達人であるとの噂は聞いておりましたが、あなたが耳鼻科の医局に入局されてから、本格的なおつき合いがはじまりました。

吉川部長のもとで共に働いた川口済生会病院では、臨床に遊びに充実した半年間でしたね。仕事を終えての帰り道、西川口の飲み屋で酒を酌み交わしたり、職員のテニスサークルに飛び入りして、お互いラケットを握ったことも懐かしい思い出です。あなたはどこの勤務先でも、たちまち職員の間で人気者となっていました。生来の親分肌で周囲の者が自然と魅了されるのでしょう。

神戸での再会から一年が経過し、福岡の講習会の際に飯塚のご自宅でお会いしたのが最後になってしまいました。別れ際に握った手の力強さに、まだ当分は大丈夫と思ったにもかかわらず、その数ヶ月後に突然訃報は届いてしまいました。

今もあなたのことを思うと、泰然自若とした様子で微笑む姿が目には浮かびます。あなたのような懐の深い希有な人間と少しでもおつき合いができたのは幸せでした。ありがとう。今も僕の心の中で、あなたは確かに生きています。だから、さようならは言いたくない。またいつか、飲みに行きましょう。

追悼 蒼き狼

岩澤 寛

古野先生に、もう会えないかと思うと非常に淋しく思われ、心よりお悔やみ申し上げます。

古野先生とは、先生が耳鼻科の医局に入局される2年位前に机を並べる機会を得ました。

私が仲良くさせていただく以前より、古野さんには、いろいろな武勇伝や伝説等がありましたがそれを聞き及び、取りつきにくい方かとおもっていたところ、気さくで穏やかな、何となく頼りにしたくなるような方で、昼休みなどに、色々群れ遊んだ思い出があります。

その後、古野先生も耳鼻科に入局され一緒に研鑽した日々が懐かしくおもいだされます。

思えば古野先生、総攬把の様な人で、今も天空を馬にまたがり旗を掲げ走りまわっているような気がしてなりません。

「よーカンチャン」と言ってまた、声を掛けてくるような、時代を超えて会えるような気がしてなりません。

古野さんマタ

追悼 古野隆之先生

渡来 潤次

古野先生。還暦を前にあまりにも早く逝ってしまいました。

私が耳鼻咽喉科に入局したとき、先生は「わたらい、おまえが最初の男の部下だ。」と言って喜んでくれました。

耳鼻科医の先輩として外来、手術と色々教わりました。一時期は、何と2人でめまい外来に出ていることもあり。短い指なのに手術も上手だったなー。先生が当直のときは「わたらい、一緒に泊まっていけ。」と言って夕食を御馳走になり、「お前はまだ、出来んから寝てろ。」と言われ、寝かしてもらいました。新潟に行った時は「わたらい、お前に酒買って来たから取りに來い」と。「雪中梅」でした。2本買って来たのだそうですが、1本は駅のホームで倒して割っちゃったとのこと。自分はよいからと私にくれました。私が単身牛久で開業した時は、食べ物を持って元氣かーと遊びに来てくれました。

下手なゴルフも古野さんがいるとスコアも良かった。とにかく私にとって古野さんは優しい兄貴であり、人生の先輩でした。ただし、不都合を人のせいにすることや卑怯なことについては、厳しい人でした。あとは、大概大したことではないと悠然としていました。

ですから、相談した時も大抵「おーいいんじゃないか、お前の思った通りで。」という次第で。よく飲みにも行きました。大学周辺、西川口、学会先。

飲んでいるとき「わたらい、なんで、優等生やら遊び人やら皆古野さん、古野さんと慕ってくるのかな。」と聞かれ、「それは、古野さんが持って生まれた天性のものでありますから。めったにいない特別な人なんですよ。」答えると「俺は幸せ者だな、わたらい」と言っていました。古野さんと接した人々は、皆大切な人を亡くしたと嘆いていると思います。

古野隆之先生。先生に逢えて良かった。有難うございました。

もう「わたらい」、「わたらい、行くぞー」、「オー、わたらい元氣だったか」聞くことはできない。残念。

御冥福をお祈りします。 合掌

追悼 古野隆之先生

大高 詳一郎

私の年代の卒業生からは兄のように慕われた古野隆之先生が逝去された。本当に寂しく辛いことである。ただ、友人のなかで最後まで一番近くにいた福岡の皆川先生の話では「自分の死については達観していたようであった。なすべき身の回りのこと、残された者への配慮、すべてが私たちの憧れた九州男児の処方であった」と。

2回生の私が先輩である古野先生と知り合ったのは確か3年生の時だったように思える。百合ヶ丘のアパートの近くに先生も弟さんと一緒に住んでいて先輩と後輩との挨拶程度の付き合いが、何故こんなにも長く深い付き合いになってしまったのか、今、改めて考えてみた。

開校当時の大学には本当にいろいろな学生がいたように思える。一度職に就き社会の現実を経験された方やバイトをしながら浪人生活を続けていた方、一浪して入学した私のような田舎の世間知らずの学生にはどこか興味を覚える人々であった。そして古野先生もそうした自分には決して無い

多くの経験に裏打ちされた器量に興味を覚えた先輩であったと思う。

よく赤ちょうちんに連れて行かれた。焼肉も好きだった。そしていつもご馳走になった。でも翌日「金がない飯食わせてくれ」と唾然とするようなこともあった。「宵越しの金は持たない」こんな言葉を思い出しながら思った、自分には決してできないと。

古野先生を一言で表せば「豪放磊落」親分肌そのままだったと思う。どんな揉め事も先生の一言で決まりだった。そんな先生が私の多摩川沿いのアパートを訪ねて来てくれたある日、土手沿いを歩きながら「夕日が綺麗ばい、飯塚と同じばい」。こんな言葉が先生の口から・・・首を傾げながらまじまじと顔を見てしまった決して忘れられない一言である。

今では時効の話。先生が行徳に開業し美浜に分院を開くとき大学研修医の私が開設者にさせられた。役所に提出する書類に印鑑を押す心配そうな私は「何も心配なかと」の一言で実の兄にでも言われたように了承したが、今にして思えばハチャメチャなことが何故か不思議にスムーズに事が運んでしまっていた。

先生は角館にも四季折々よく遊びに来てくれた。満開の桜、新緑の武家屋敷、紅葉の田沢湖そして雪明りの居酒屋で飲んだ日本酒の旨かったこと懐かしく楽しい思い出である。夏に泊まった夜、やおら起きてきて当時住み込みの看護婦に「イヨ子さん、蛙がうるさいけどこれでいいの？」きよとんとした顔の彼女はこの話になると今でも泣いている。

古野先生、あなたは周りの多くの人が評するように本当に豪快な人でした。でも私には不思議な人もありました。些細なことにはとらわれず、損得には自分を勘定に入れず、義理に厚い人情家、それでいて詩情をもって飄々と生きていた様に思えます。いずれにしても私にはとても出来ないがどこかで憧れた羨ましい生き方を見せてくれたのだと思います。

秋田国体開催中の10月5日、高校生の息子さんがゴルフ競技に出場しているからと先生の妹さんが角館まで訪ねて来て下さいました。先生を思い出し目頭が熱くなった一日でした。 合掌

追悼 古野隆之先生

中島 博昭

先生と初めてお会いしたのはお互いがまだ学生時代の頃までさかのぼりますが、私が大学2年(1年の頃はこの体格で華麗なるテニス部に所属していたのですが……)その頃に藤野さん等に誘われて、柔道部に入部した時のことです。高校時代に体育の授業でしか柔道をやったことがなく、柔道のことも何も知らない私に1から10まで教えていただきました。(おかげで東医体で団体戦で初優勝することができました。今ではよい思い出です)入部時の新歓コンパの時にすごい酒の飲み方をする先輩がいらっしやと思ったことを憶えています。確かその時は舟木さんもコンパ部代表として同席されていた記憶がありますが…。

その後は入局するまでは直接(部活以外で)特に親しくすることもなく、入局後研修医明け後の町田市民病院にて初めてオーベンとして指導していただきました。医師の心得等についてよく教えて頂きました。やはり酒の量は半端でなく仕事が終わるとよくのみにいったものでした。私の記憶にある(勿論他にもたくさんあると思いますが)失敗は朝寝坊をしてしまい、遅刻してしまいました。その時に「下手ないいわけをしないで、正直に寝坊したならしたで言いなさい」といわれたのをよく憶えています。あの先生がこんなに早くお亡くなりになってしまうなんて……。

先生のご冥福を心からお祈りし、謹んで哀悼の意を申し上げます。どうぞ安らかにお休みください。

合掌

古野 隆之先生を悼む

南 定

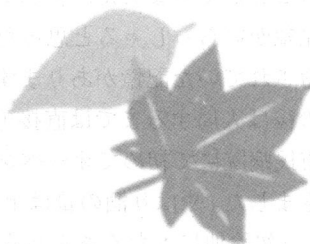
古野先生との最初の出会いは、私が聖マリアンナ医大柔道部に入部した大学一年の一学期でした。土曜の練習日に、いままでの練習では見た事無い先輩が凄い存在感でそこに立っておられました。当時主将だった岡野さんに尋ねると「一回生の古野さんだ。もう現役は引退したが半端じゃない強さだぞ。」と、見るからに堅気じゃない威圧感でした。直接練習をすることはありませんでしたが伝説的な強さは先輩からいろいろと聞いていました。二回生から七回生の先輩方は古野さんをとても怖がっていましたが、なぜか私には優しくして下さいました。それから古野先生は医師となり、柔道部の顧問でいらした竹山先生の耳鼻科に入局され医師として仕事が忙しくなられ、しばらくお会いすることもありませんでした。

その後、私も医師となり同じ竹山耳鼻科に入局し、また古野先生と身近に接する事になりました。そして驚いたのは柔道部時代にはみんなに怖がられていた“古野さん“が、すべての医局員に慕われる古野先生になっていた事です。しかし、古野先生の一本筋が通った人間性と後輩思いで面倒見が良いところを考えれば当然だと思えます。耳鼻科入局後は、巡り合わせが悪く古野先生と同じ職場になったことが無くとても残念でした。しかし、何かにつけ気に止めていただき、飲みにも誘われ医師としての心構えなどいろいろ教えていただき大変お世話になりました。

そして、古野先生が医局を辞められ開業医となり、古野医院をお手伝いする機会もあり、またゴルフなども誘っていただき大変お世話になっていました。しかし、その後古野先生も故郷である福岡に戻られ、私も竹山 勇主任教授退官と同じく医局を辞め開業医となり、学会や専門医講習会で時々お会いする位になりました。

そして、忘れもしない2005年の神戸での専門医講習会で一緒に食事をしている時、「南、おれ前立腺癌なんだよ、それも骨転移しているんだよ。」とさらっと言った後、あまりの驚きに私が無言でいると続けて、「おれの生き方よく知っているだろ。」それを聞き、「化学療法とかしていないんですか？」と尋ねると「してない。」と一言。その後、何とか必死に治療を勧めたがはっきりした答えもいただけないまま別れました。しかし、その後化学療法は何回かやられたと聞き少し安心していましたが、2007年1月23日治療の甲斐無く永眠なさったと聞きしばらくの間力がぬけた日々を過しました。あんなにすばらしい男気のある良い先生がこんなに早く逝ってしまうなんて。

すべての人に慕われていた古野先生が、我々医局員に残してくれたものは決して忘れないでしょう。心よりご冥福をお祈り申し上げます。



古野さん、ありがとう。

大竹 英夫

「私は何でだかわからないが、何かしようと思うと、自分でしなくてもだれかがしてくれるですよね。」「それはきっと古野先生の人徳なんじゃないかな。」「そうなんですかね。自分でもどうしてだかわかんないけど、自然とそうになってしまうのだから。」

私と古野先生は、昭和22年生まれ、亥年、血液型B型と、共通点は多いのだが、中身は全く違う。正反対といってもよい。

「勉強は先生の方ができるけど、私の周りにたくさんの人がいるから。それが一番いいとおもっているんですよ。」その通り。古野先生の当直のときはなぜかに2-3人の医局員が泊まっている。

運動は万能。柔道はもとより、テニス、野球、何でもうまい。

特にゴルフは、プロ並みである。ドライバーは、気持ちが良い程まっすぐ飛びキャディさんも驚く。「先生プロにもなれるんじゃない。」「その気になればなれるかもしれないけど、もう歳だから。」どうも本気らしい。

勉強以外負けたことがあまりないので、結構勝気である。

囲碁をしたことがあるが、最初から殺しにかかる。勝つとすごうれしそうに何度も何度も酒の上で組上にのる。

ケンカは滅法強いらしい。らしいというのは、見たこともやった事もないからである。しかし、誰に聞いても古野先生は強いという。怒った顔も見たことがない。「威あって猛からず」である。

先日、国立博物館に仏像を見に行った。釈迦如来像が古野先生に似ていると感じた。

もしかしたらなど思ってしまう。

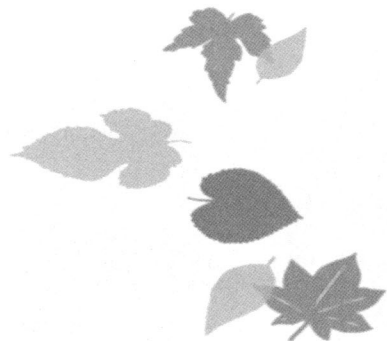
古野先生は1月23日 短い人生を閉じた。59歳であった。一生の長さはさまざまでももちろん長ければよいというものでもない。

古野先生は多くのよき友人にめぐまれ、彼らと接して多くの人生を共有し、中身の濃い人生を送った。よく遊びもしたし、開業医として華やかな時期もあった。私はそんな古野先生を通して多くの友人と接することができ、人間の多様な面を見、そして知り、人間に対する考え方も変わった。感謝している。もう一回一緒に酒を飲みたいと思っているうちに逝ってしまった。

来世があるかどうか知らないが、もしあるのならば、古野先生は彼岸の園できっと新たな多くの友人に盛り立てられ、にぎやかに楽しんでいるに違いない。

最後は骨転移のため、結構痛かったと聞いている。

古野さん、ご苦労様、そしてありがとう。



第108回 日本耳鼻咽喉科学会参加報告

矢野 裕之

「両側 1000Hzdip をともなった上半規管裂隙症候群の一例」なる演題を出して5月の金沢に行ってきました。発表は学会の最終日。なぜか外リンパ漏れを取り扱う群の最後に組み込まれていました。座長は川崎医大教授の原田保先生。原田先生は私が阪大に入局した当時の筆頭講師で、予稿集を見たときから懐かしい気分でした。外リンパ漏れを専門とする先生方の討論に時間を取られたのかそれとも発表の内容が乏しかったのか、それほど多くの質問もなく発表は終わりました。フロアで原田先生に挨拶したところ、「いやー、まさか先生が来るとは思いませんでした。同姓同名の別人かと思ってました。」などと言われてしまい、嬉しい苦笑いをしてしまいました。「しばらく見ないうちに先生、丸くなりましたなあ。」とも言われました。どういう意味だったのでしょうか？

主催した金沢大学の力の入れ様は大したもので、学会は非常に豪華で充実していました。ランチョンセミナーには贅を尽くした金沢料理のお弁当が用意され、セミナーそっちのけ

で堪能してしまいました。金沢近郊出身の道場六三郎氏の特別講演は素朴で素直でそれであるためになる話でやっぱり何かを極める日とは違うなあと感じさせられました。

金沢は北陸の小京都と言われるだけあって京都をもしのぐ風情ある街でした。時間の都合で有名な兼六園には行けなかったのですが、小さな寺の多い町中を歩き回るだけでも日本古来の情緒ある雰囲気を楽しめました。学会でなくともまた行きたい街です。

最後に私一押しのおみやげをご紹介します。

「甘納豆かわむら」

西茶屋街にあります甘納豆のお店です。



第37回平衡機能検査技術講習会の報告

矢野 裕之

本講習会は8月6日～10日に日本めまい平衡医学会の行事として当教室が主催して行われました。日本橋三越百貨店近くの昭和薬貿ビルを会場としました。期間中、現地に参加したスタッフは教授の肥塚先生、準教授岡田先生、北島先生、教授秘書の北山さんと私です。実習には東先生にも協力していただきました。この講習会は主に平衡機能検査に携わる臨床検査技師や看護師の方々を対象に行っているものです。講習期間が5日間もあり参加費用もなかなかのものなのですが、今回は例年にも増して盛況で、受講者は予想を遙かにしのいで42人を数えました。

講義スケジュールは実践的項目とトピックとを取り混ぜて構成しました。講師をお願いした先生方は各々そのテーマの第一人者、いわゆるその道のプロと言われる方に来ていただきました。また実習指導者には知識と技術に定評のある検査技師の方々をお願いしました。

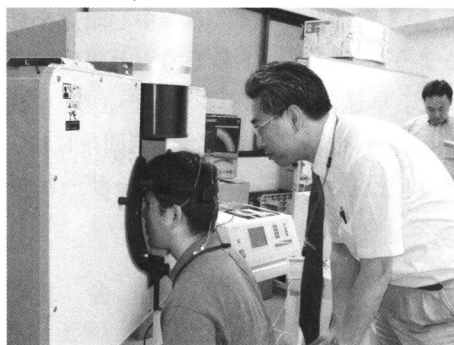
各氏のおかげで講習内容は受講者には大変好評でした。また今回は新たな試みとして現場で働く検査技師の講義を取り入れました。これも受講者から好評でした。これだけの講師陣を揃えられたのは偏に肥塚先生の日頃の活動のおかげではないでしょうか。

受講者はみなさん驚くほど熱心でした。休憩時には毎回、我々スタッフへ質問に詰めかけて来る人が絶えませんでした。受講者の質問攻めにほとんど一人で答えてくれました北島先生はさぞご苦労であったことと思います。

実習には耳鼻科医にはおなじみの第一医科、永島医科をはじめ、多数の医療機器メーカーの協力により充実した設備を揃えて行うことができました。指導にあたった技師の方々と岡田先生、東先生のおかげで充実した内容になりました。

今回の講習会では準備の段階で私が至らないうばかりに大変な労力を要しました。不手際なく当日を迎えられたのは北山さんの事務処理のおかげです。

協力して下さった皆さんにここで改めてお礼を申し上げます。



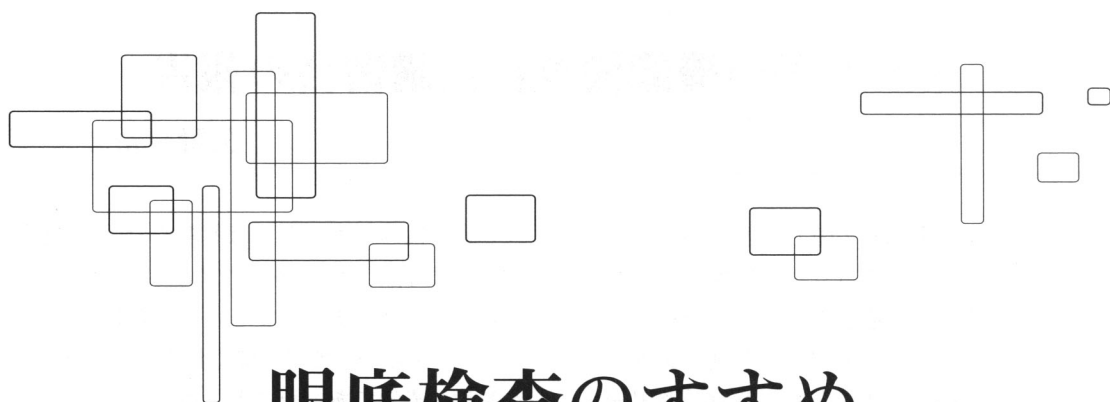
講習会 岡田



講習会 北島



講習会 東



眼底検査のすすめ

岡田 智幸

裸眼視力0.1の私だが、最近、羞明感（まぶしく感じられること）や眼精疲労を自覚し、今まで診察して頂いたことのない眼科へと足を運んだ。

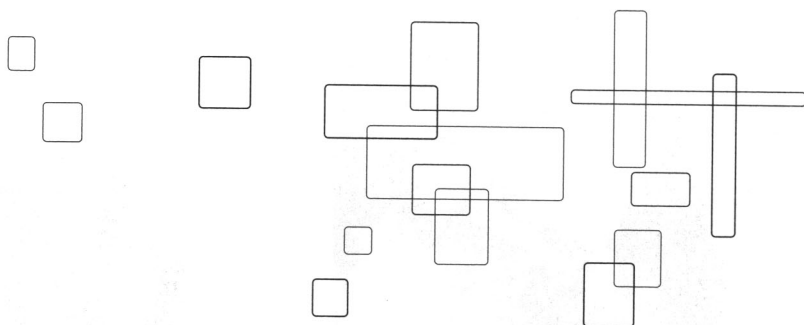
てっきり、ソロソロと思っている老視で、やや白内障もありかと思っはいたが、島田病院の眼科山本先生から「網膜裂孔」がありますといわれた時には、「網膜裂孔」＝「網膜剥離」と勘違いし、目の前に大きな中心暗点を見ているようで、これは手術ですかと思わず聞いていた。早速、その場でレーザー治療（左眼、48発の緑の閃光）を受けた。2週間後には、右眼どういう訳か同じ48発のレーザー治療で

あった。気のせいか、以前よりよく見えるようだ。

今回の自らの症例の所見は、網膜剥離の2歩手前くらいだそうで、上記の羞明感や眼精疲労はあり得ない症状だそうだ。

特に、発症しやすい強度の近視の先生方、一度は眼底チェックを！網膜剥離では、前兆なくいきなり像がブレたり、見えなくなるそうだ。

耳鼻科診療は、目、眼が命。



聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会会則

第1章 総 則

第1条 (名 称)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会と称する。

本会は、通称を四門会と称する。

第2条 (事務局)

本会は、事務局を聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室内に置く。

第2章 目的および事業

第3条 (目 的)

本会は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の進歩発展と学術事業に対する援助を行うとともに、会員相互の学術研鑽並びに親睦を図ることを目的とする。

第4条 (事 業)

本会は、前条の目的を達するために、次の事業を行う。

- (1) 学術研究会および講演会等の開催
- (2) 総会および親睦会の開催
- (3) 四門会誌・名簿・その他出版物の発行
- (4) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室の後援
- (5) その他、本会の目的を達成するのに必要な事項

第3章 会 員

第5条 (会員)

本会は、次の者をもって会員とする。

- (1) 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室在籍者
- (2) 聖マリアンナ医科大学関連教育病院耳鼻咽喉科在籍者
- (3) 本会の目的に賛同し会長あるいは理事会において承認された者

第6条 (会員の入退会手続)

- (1) 本会に入会を希望するものは、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、理事会の承認を得なければならない。
- (2) 前条(3)項に該当する者は、会長あるいは理事会の推薦を得た後、所定の申込書に年会費を添えて本会に提出し、総会で承認を得なければならない。
- (3) 本会の退会を希望する者は理事会の証人を得なければならない。

第7条 (会 費)

- (1) 会費は細則に定めるところにする。
- (2) 会費は前納とする。

第4章 役 員

第8条 (役員)

本会は会長1名、副会長1名、理事数名、事務局長1名、監事2名を置く。

第9条 (役員の任期)

- (1) 本会の役員の任期は、原則としてその都度議を得るものとする。ただし、再任を妨げない。
- (2) 役員に欠員が生じた場合、補欠役員がその職務を行う。
補欠役員の任期は、前任者の残任期間とする。
- (3) 役員は、その任期満了後でも後任者が就任するまでは、その職務を行う。

第10条 (役員の職務、権限)

- (1) 会長は本会の代表し、会務を総括する。
- (2) 副会長は会長に支障が生じた場合、その職務を代行する。
- (3) 理事は理事会を構成し、この会則に定めるもの他、本会の業務を議決し、業務を執行する。
- (4) 監事は本会の業務ならびに会計を監査する。
- (5) 事務局長は理事会のもとに事務局を統括し、会務の遂行にあたる。

第11条 (役員を選任)

- (1) 理事および監事は会員により推薦され、理事会の議を得て、総会にて承認得たものとする。
選出の方法は細則による。
- (2) 理事の中に推薦理事と名誉理事を置き、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室代表教授をこの推薦理事とする。また、教授退任後は名誉理事とする。
- (3) 会長、副会長は理事の互選とする。
監事は理事および事務局長を兼ねることはできない。

第5章 会 議

第12条 (総会)

- (1) 総会は年1回会長が理事会の議を経て、これを召集する。
- (2) 総会は会員の3分の1以上の出席(委任状を含む)をもって成立する。
- (3) 総会において会長は議長とし、事業計画ならびに収支予算についての事項、事業報告および収支決算についての事項および本会の運営に関する重要事項の承認を受けなければならない。
- (4) 総会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 会長が必要と認めた場合、あるいは会員の要望が

ある場合において、会長は理事会の議を経て、臨時総会を召集することができる。

第13条（理事会）

- (1) 理事会は会長がこれを召集する。
- (2) 理事会は現理事数の3分の2以上の出席（委任状を含む）をもって成立する。
- (3) 理事会において会長は議長となり、本会の事業を企画し、必要な一切の事項を審議し運営する。
- (4) 理事会の議決は出席者の過半数をもって決し、可否同数のときは議長が定める。
- (5) 監事は理事会に出席し意見を述べることはできる。ただし、票決に加わることはできない。

第6章 事務局

第14条（事務局）

- (1) 本会の一般業務を処理するために、本会の事務局内に事務局を置く。
- (2) 事務局の構成は事務局長1名、事務局員若干名とし、選出方法は、聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室医局に一任する。
- (3) 事務局長は理事会に出席する。

第7章 会計

第15条（本会の経費）

本会の経費は会費、寄付金、その他の収入をもってあつてゐる。

第16条（会計年度）

本会の会計年度は毎年10月1日に始まり翌年9月30日に終える。

第8章 会則の改正

第17条（会則の改正）

本会則を改正するには理事会の審議を経て、総会の出席者の3分の2以上の議決を得なければ変更することができない。

第9章 その他

第18条（その他）

本会則を施行するに必要な細則を別に定める。

<附則>

第19条（本会則の発効）

- 本会則は平成9年12月1日から発効する。
本会則は平成12年12月2日から発効する。
本会則は平成16年11月28日から発効する。
本会則は平成18年12月3日から発効する。

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会細則

第1条 本細則は会則第18条によりこれを定める。

第2条（会費）

- (1) 会費は年会費とし、次のごとく定める。
 - ・聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室および同関連教育病院現医局員の会員は年額5,000円
 - ・その他の会員は年額10,000円
- (2) 70歳以上の会員に対しては理事会の議を経て、会費及び同門会参加費の免除を行い、名誉会員とする。

第3条（役員を選出）

- (1) 役員の数定数は、理事15名以上、監事2名とする。
- (2) 選出方法は理事会に一任する。
- (3) 会長および副会長の選任は理事の互選による。

第4条（慶弔）

会員にかかる慶弔は理事会に一任する。

<附則>

第5条（本細則の発効）

- 本細則は平成9年12月1日から発効する。
本細則は平成11年11月28日から発効する。
本細則は平成12年12月3日から発効する。
本細則は平成16年11月28日から発効する。
本細則は平成17年12月4日から発効する。

第10回四門会理事会議題

平成18年12月3日

1. 会員数、内訳（平成18年12月3日現在）

総会員数；129名
うち現医局員40名、名誉会員5名

2. 会員異動

越智健太郎 平成17年12月 退職
(おち耳鼻咽喉科)
小林 健彦 平成17年3月 退職
(耳鼻咽喉科虎ノ門アイ・クリニック)
佐藤 成樹 平成18年9月 退職
(耳鼻咽喉科 葛が谷こまクリニック)

3. 新入会員

三上 公志 平成18年4月
聖マリアンナ医科大学卒
及川 貴生 平成18年4月
聖マリアンナ医科大学卒

4. 退会希望者

菱沼 文彦
北原 哲
岡村 淳

5. 平成17年度会計報告(平成17年4月～平成18年9月)

(会則の変更により今年度の会計は4月～9月となっております。)

平成17年度繰越金		¥1,064,328
	収入	支出
平成16年度医局員会費	¥ 195,000	
平成17年度医局員会費	¥ 175,000	
平成17年度会費	¥ 580,000	
四門会誌第13号印刷費		¥ 420,210
四門会懇親会費		¥ 53,000
集合写真(日当込み)		¥ 76,000
慶弔費		¥ 29,026
ポスター賞祝い(Dr. 岡田)		¥ 50,000
講演会謝金		¥ 50,000
日本宇宙航空環境医学会寄付		¥ 450,000
	¥ 950,000	¥ 1,128,236
次年度への繰り越し金	886,092 + ¥ 22(利息) =	
	¥ 886,114	

6. 平成19年度役員人事

平成18年度 聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会役員

会 長 肥塚 泉
副 会 長 菊地原基敬
推薦理事 肥塚 泉
名誉理事 荻野洋一、竹山 勇、加藤 功、
大橋 徹
理 事 飯田 順、岩澤 寛、岩武博也、
芋川英紀、上杉恵介、大竹英夫、
小野泰三郎、勝見直樹、
菊地原基敬、佐久間惇、
関 良武、高橋 姿、戸田行雄、
中島博昭、南 定、宮部 聡
渡来潤次、堤康一朗、佐藤成樹、
越智健太郎、渡辺昭司
監 事 石倉幹雄、岡田智幸
事務局長 新谷敏晴
(平成18年4月より服部康介)

敬称略、50音順

7. 平成19年度総会日時

8. その他

編集後記

- 今年、第37回日本めまい平衡医学会主催技術者講習会を当教室肥塚教授が担当して、多数の受講者を見た。各受講者は、大変熱心で、医学部学生の受講態度とは比べ物に成らないと感じられた。中には、向上心のため資格の制約を超えて受講するといった積極性のあるSTの方もいらした。
- 地方での医師不足は深刻で、痛烈に、医師会会報等で、新臨床研修制度を批判する記事が目立つ一年であった。人員確保のため、学内では、少なくとも5年のBSLからの勧誘活動が、各教室で始まっている。切実なのは後期研修（入局）で、当教室への後期研修志望者は、果たして何名だろうか？ 3年目から無給となる他大学で研修を受けた研修修了者の受け入れやブランド病院での研修を半ば失望して戻ってくる後期研修医を受け入れる体制を教室ばかりでなく、大学全体で積極的に考える時期にきている。
- 当教室OBの古野隆之先生が、今年1月23日に亡くなった。高校柔道部当時、九州の怪童と呼ばれた山下泰裕（205連勝、ロサンゼルスオリンピック金メダリスト）に稽古をつけたという逸話の持ち主である。スポーツ万能で、1回生の舟木東横病院長や6回生の明石理事長が所属した硬式野球部にも所属。一方、繊細な気配りをする先生で、当直時には必ず看護師さんに手みやげを持っていき「当直です。よろしくお願ひします。」と挨拶する先生であった。口数は少ないが、コミュニケーションは自然体で、個人的ではあるが「ね、岡田ね」といっては、自分の行動で教えるタイプの先生でもあった。研修医時代には、私の行動パターンで鋭く、勉強の程度を確認された。ただ「ウソとハッタリの大嫌いな先生」であった。町田市民病院勤務時、午後opeが中止となり、当教室OBの羽馬 晃先生とともに午後3時から、町田界限でお店を探して午前様になるまで「マリアンナの将来」について語り合い、盛り上がったことを思い出す。

古野先生の教えを肝に銘じて。

合掌

（文責：岡田智幸）

アレグラ錠 新発売! 30mg



アレグラ錠に新しいファミリーが追加になりました。

アレルギー性疾患治療剤

指定医薬品 処方せん医薬品 (注意-医師等の処方せんにより使用すること)

allegra® アレグラ®錠 30mg
60mg

塩酸フェキソフェナジン製剤 ●薬価基準収載



© サノフィ・キッスター・ジョン・AP

【禁忌(次の患者には投与しないこと)】

本剤の成分に対し過敏症の既往歴のある患者

【効能又は効果】

アレルギー性鼻炎、蕁麻疹、皮膚疾患(湿疹・皮膚炎、皮膚そう痒症、アトピー性皮膚炎)に伴うそう痒

【用法及び用量】

通常、成人には塩酸フェキソフェナジンとして1回60mgを1日2回経口投与する。通常、7歳以上12歳未満の小児には塩酸フェキソフェナジンとして1回30mgを1日2回、12歳以上の小児には塩酸フェキソフェナジンとして1回60mgを1日2回経口投与する。なお、症状により適宜増減する。

【使用上の注意】(抜粋)

●重要な基本的注意

(1) 本剤を季節性の患者に投与する場合は、好発季節を考慮して、その直前から投与を開始し、好発季節終了時まで続けることが望ましい。

(2) 本剤の使用により効果が認められない場合には、漫然と長期にわたる投与しないように注意すること。

●相互作用

併用注意(併用に注意すること):制酸剤(水酸化アルミニウム・水酸化マグネシウム含有製剤)、エリスロマイシン

●重大な副作用

1) ショック…ショックを起こすことがあるので、観察を十分に行い、呼吸困難、血圧低下、血管浮腫、胸痛、潮紅等の過敏症状があらわれた場合には投与を中止し、適切な処置を行うこと。

2) 肝機能障害、黄疸…AST(GOT)、ALT(GPT)、γ-GTP、Al-P、LDHの上昇等の肝機能障害、黄疸があらわれることがあるので、観察を十分に行い異常が認められた場合には、投与を中止し、適切な処置を行うこと。

アレグラ錠30mgの小児への投薬期間は、厚生労働省告示第107号(平成18年3月6日付)に基づき、平成19年12月末日まで14日分を限度とする。

2007年1月改訂(第7版)

★その他の使用上の注意等の詳細は現品添付文書をご参照ください。

★「禁忌を含む使用上の注意」の改訂には十分ご留意ください。

★資料は当社医薬情報担当者にご請求ください。

製造販売:

サノフィ・アベンティス株式会社

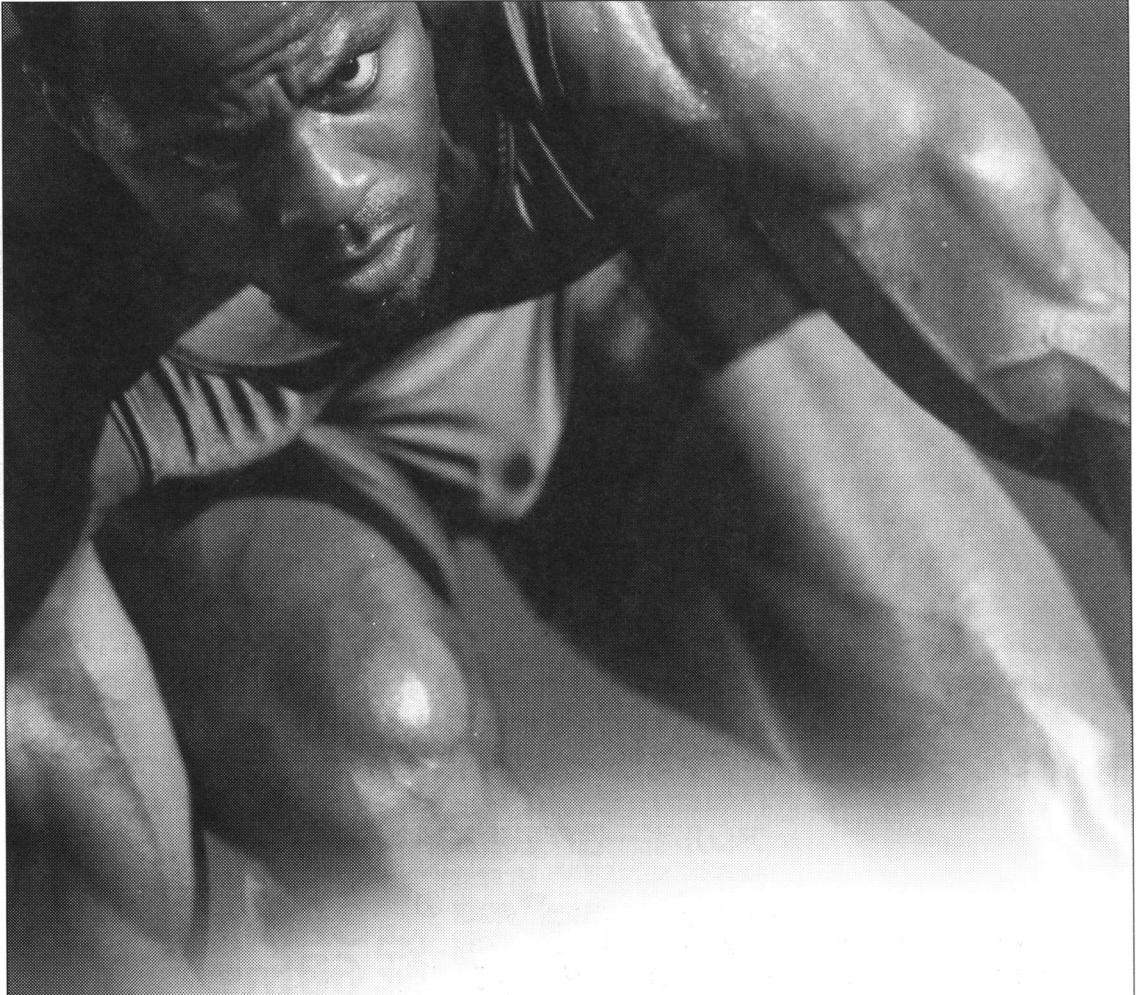
〒163-1488 東京都新宿区西新宿三丁目20番2号



sanofi aventis

Because health matters

2007年8月作成 JP.FEX.07.08.02



ニューキノロン系経口抗菌剤

劇薬，指定医薬品，処方せん医薬品^{注1)}

注1) 注意—医師等の処方せんにより使用すること

アベロックス[®]錠400mg

Avelox[®] 塩酸モキシフロキサシン錠 略号 MFLX

®: ドイツ・バイエル社登録商標

■ 薬価基準収載 ■ 「効能・効果」，「用法・用量」，「禁忌」，
「使用上の注意」等については添付文書等をご参照下さい。

発売[資料請求先]



シオノギ製薬

大阪市中央区道修町3-1-8 〒541-0045
電話0120-956-734 (医薬情報センター)
<http://www.shionogi.co.jp/med/>



製造販売元

バイエル薬品

大阪市淀川区宮原3-5-36 〒532-8577
<http://www.bayer.co.jp/byl>

2006.9 作成 B5

ロイコトリエン受容体拮抗剤

— 気管支喘息・アレルギー性鼻炎治療剤 —

指定医薬品

オノン[®]カプセル 112.5mg

プラニルカスト水和物カプセル

ONON[®]

薬価基準収載



●効能・効果、用法・用量、禁忌を含む使用上の注意等、
詳細は製品添付文書をご参照ください。

資料請求先



小野薬品工業株式会社

〒541-8564 大阪市中央区久太郎町1丁目8番2号

051201

聖マリアンナ医科大学耳鼻咽喉科学教室同門会

「四門会」第15号

平成19年11月発行

発行 聖マリアンナ医科大学
耳鼻咽喉科学教室同門会
電話 044 (977) 8111 (代)
制作 株式会社 教育広報社

